

いちょなみき

No. 78

特集
Special Section

教育改新 学びの強化

「鍛え抜かれた学生を育て、
社会に送り出す」

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
酒井 誠二さん 井関農機株式会社 常務執行役員
開発製造本部副本部長
- 研究室訪問 生方 史数 大学院環境生命科学研究科
准教授
- きらり岡大生 入道 陽香 農学部総合農業科学科 4年
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 岡山大学ホームカミングデイ 2015 開催予告



時計台と津島キャンパス

教育改新

学びの強化

Executive Director and
Vice-President (Education)
HUH, Nam-ho

特集
Special Section

鍛え抜かれた学生を育て、
社会に送り出す

岡山大学が「聖域なき改革」の二環として2016年度から導入する60分授業・4学期（クォーター）制のスタートが近づいてきた。これらを柱に岡山大学が推進する「学びの強化」について、許南浩教育担当理事（高等教育開発推進機構長）に今後の展望を聞いた。

―教育改革の背景と目的は。

マスコミの世論調査などからも分かるように昨今の日本の大学教育はネガティブな評価をされ、予測困難な未来を切り拓くことのできる人材輩出に向けて改革が求められている。約20年前の中央教育審議会答申を見返すと、そこには基本的に今と同じ課題が指摘されており、大学がこれまで実質的な改革を行ってこなかったという認識を持つべきだとあらためて実感した。

ただ、何もしてこなかったわけではなく、教育の質向上に向けて文部科学省が支援するGP（優れた取り組みなど）、新しい教育プログラムは展開してきたのだが、それは一部の教員しか関与せず、一部の学生しかその教育を受けていないからその結果であり、多くの学生が旧態依然たる教育を受けて卒業していることが根本的な問題だ。

一方で少子高齢化やグローバル化など社会環境は大きく変化。議論を深めている間にも学生は年々社会に出ていくわけで、待ったなしの教育改革をどう進めるか。社会が長く大学に求めている課題を真正面から受け止め、学びの強化を実現していかなければならない。

―60分授業、4学期制導入によるメリッ

トは。

改革の大きな柱となる60分授業では1コマの授業時間をこれまでの90分から短縮。2単位を取得するには90分×15回ではなく、60分×30回の講義受講が必要になる。全学部で実施するのは国立の総合大学としては全国初の取り組みで、学生にとっては1コマの授業時間が短くなるので集中力が持続でき、修学時間もしつかりと確保できる。教員にとってもより詳しくじっくりと教えることが可能になる。

既存の講義すべてを組み込まないため、教員は必然的に科目数を精選、融合する必要があるが、これを1つの教育改革プラットフォームとし、すべての科目においてこれまでの教育内容や方法、システムを再検証し、大学全体でカリキュラムを見直す好機ととらえている。その中で学生が主体的に「学びたい」と感じるようなアクティブ・ラーニングなどの新しいタイプの授業を取り入れ、評価方法においても学生に主体的な役割を持たせ、学生が相互につけ合った評価を加味するなど、学生の自修の強化、充実を図っていく。

また、4学期制導入によって学生の理解度や到達度を把握する機会が増え、より確かな評価ができるようになる。夏

期・春期休業と組み合わせる長期的なインターシッピングや海外留学、ボランティアなどの計画を立てやすくなり、学生にとって自由度が高まると考えている。

―国際性をそなえた教育の実践も重要だが。

マッチングプログラムコースを拡充し、日本人学生と世界各地から集まった留学生・帰国生と一緒に学ぶグローバル・デイスカバリー・プログラムを始動する。学士課程ではこれまで英語だけで卒業できるシステムはなく、日本人学生が留学生と一緒に勉強できることも大きな意義があるだろう。教育サテライトの1つとして位置づけ、フレキシビリティを持って展開し、結果次第でより拡充していきたいと思っている。

―教員はどのような意識で臨むべきか。

学生に何を教えたいのか、どういう教え方をすれば学生の興味を喚起できるのかなど、教員自身が教育の目標や内容、方法をしっかりと考えることが学生の学ぶ姿勢を変える出発点だと考える。多くの教員は教授法を学んでいるわけではなく、戸惑いがあるのは事実で、昨年10月、学内に立ち上げた高等教育開発推進機構もより良い教育を追求する教員への積極的な支援に取り組む。

教員の負担が一時的に増えることになるかもしれないが、社会情勢からみても歯を食いしばってやるしかない時期だと思っている。

―今後の展望は。

学生は何のために大学に来るのか。しっかり学ぶためであるという原点に戻ることが大事だ。この改革によって学生が勉強にやりがいを感じ、将来必要となる本当の力を身につける。5年後には社会が求める鍛え抜かれた学生を、自信を持って送り出すことができると期待している。学士課程教育の内容と教育目標達成度を可視化した岡山大学固有の「学士課程教育構築システム（Q-Lumシステム）」なども用いながら、学生が岡山大学で何ができるようになったかという質的保証も社会に対して明確に示す必要がある。

また、文部科学省が進める高大接続、大学入試改革も注視しなければならぬ。大学入試センター試験が廃止され、替わって導入される新たなテストがどういうものになるかにもよるが、われわれのように確固たる人材育成像を持っている大学にとって入学時の基盤的な学力は必須であり、それをどう保証するのかも気にかかるところ。社会の動向を見据えながら入試体制を再考していくことが次なる課題になってくるだろう。

学びの強化



岡山大学の授業が変わる！
学びが変わる！



大学で学ぶ時間が従来の1.3倍 「60分授業」の導入

現況	1コマ 90分	× 15回 =	2単位
今後	1コマ 60分	× 15回 =	1単位
		× 30回 =	2単位

授業の目標と内容に合わせて
いろいろなスタイルの授業を展開

授業の形式(例)	60分 1コマ/週	60分 複数コマ/週	60分 複数コマ連続
----------	--------------	---------------	---------------

集中学習で学外活動が可能になる 4学期(クォーター)制



1年間を4学期に分けることで……

- ▶集中的に学べ、ステップアップが図りやすい
- ▶柔軟な履修計画が可能
- ▶各学期+α期間で多様な学外活動が可能

4学期制導入によって可能になる学外活動の例

2ヶ月以上の留学	長期間のインターンシップ	定期的・長期的なボランティア課外活動
----------	--------------	--------------------

2014年度に文部科学省の国立大学改革強化推進事業に選定された岡山大学。

アウトカムに重点を置く教育を推進するなどさまざまな取り組みが加速する中、全学60分授業や4学期(クォーター)制が始まる2016年度から教育の一大転換を行う。



「学びの強化」へ向け、 学修環境を整備

これまでは知識の伝達に重きを置いて一方向授業が多かったが、グローバル化が進む中で学生のコミュニケーション力や課題解決力などが大きく求められるようになり、学生の能動的な学びを実現するアクティブ・ラーニング(学生参加型、課題解決型授業)を拡充する。2014年度にはさまざまな授業に対応可能な教室関係の設備や、ICT(情報通信技術)機器活用のためのネット環境の拡充などハード面を整備し、アクティブ・ラーニングの拡充に向けた土台を構築。学生の学ぶ姿勢や学ぶ力、考える力を伸ばし、「鍛え抜かれた学生」を社会に送り出し、国際社会で活躍できる人材の育成を進めていく。

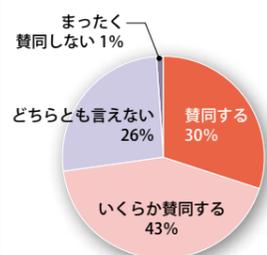
教員も変わる！ 新しい授業を目指す！

「学びの強化」には授業を行う教員の意識改革や支援も不可欠。岡山大学は、2014年10月に高等教育開発推進機構を設置し、60分授業・4学期制導入に伴う新たな授業カリキュラムの構築に向けて教員に授業改善のヒントの提示、授業プログラム改善の協力、能動的・先進的な授業の紹介など積極的な支援を行っている。2015年度は学内から新たなカリキュラム改善を公募。申請は、計201件(学部・40件、グルー

科目総点検で 精選された授業へ

グローバル化に対応した、学生のニーズや評価も踏まえ、社会に不可欠な教養や基礎的能力を獲得できるようにすべての科目内容を点検し、4学期制にリニューアル。新しい教養教育科目は540科目となり、2016年度の教育の一大転換に向け、精選されたカリキュラムができあがった。新カリキュラム導入とともに新しい評価方法の検討も進んでいる。アクティブ・ラーニングでは従来の一方向授業で知識を問うテストではなく、どう授業に取り組んだかが重要。岡山大学では、360度評価(学生同士や第3者による評価などを入れた多面評価)や達成度評価(ルーブリック評価など)が考えられている。岡山県内の官公庁・企業等に実施したアンケートでは7割を超える企業が岡山大学の教育改革に賛同するなど注目度も高い。

大学教育の在り方及び岡山大学の教育改革の意見を求める企業アンケート(平成26年10月実施)



新しいプラットフォーム 「60分授業4学期(クォーター)制」導入に向けて 桃太郎フォーラムを開催

9月10日、岡山大学津島キャンパスにて岡山大学教職員研修「桃太郎フォーラム XVIII」を開催しました。60分授業4学期制導入に向けた各学部の新カリキュラムの取り組みに関するシンポジウムや、新しいプラットフォームを活用した授業改善のアイデアを紹介するポスターセッションなどがありました。

シンポジウムでは、学部全体で統一した授業改善の実施に取り組む教育学部がICTを活用したプレゼンテーションや反転授業、グループによる協同学習を推進する新カリキュラムの構築を紹介。環境理工学部は複数の専門分野にまたがる4~8科目程度のモジュール科目を提案し、1つの学期で集中して学ぶことで理解度を高め、分野横断型の実践知・実践力の醸成を目指していることを報告しました。

ポスターセッションでは22件のさまざまなアイデアを紹介。教養の授業では高校からの知識の接続や各内容のつながりを意識した授業に再編成するものや、これまでの活字中心から画像や映像を加えた教材への変更、60分ごと



の小テスト実施で知識の定着を図るアイデアをはじめ、理系の専門授業では連続した2コマで講義(60分)+演習(60分)を行い、学生の自主性に任せていた復習や演習を組み込む授業などが挙げられ、これらの組み合わせで理解力を高める改善策が議論されました。

桃太郎フォーラムには、学内外から約300人が参加し、熱心な議論が繰り広げられ、さまざまな立場からの意見が寄せられました。

TOPICS



井関農機株式会社 常務執行役員 開発製造本部副本部長 ◆岡山大学農学部農業工学科卒

酒井 誠二

S A K A I S e i j i

人口爆発や農業人口減少による
世界規模の食料事情問題。
日本の技術で世界の農業生産拡大に向け、
現地にあった製品を次々と世界に送り出す。

- ▶さかい せいじ (63歳)
- 1952年 福岡県生まれ
- 1975年 岡山大学農学部卒
- 井関農機株式会社入社
- 開発製造本部 商品企画部長
- 2008年 開発製造本部 購買部長
- 2009年 執行役員
- 2010年 開発製造本部 開発推進部長
- 2011年 開発製造本部 副本部長
- 2013年 常務執行役員

世界の農業に貢献できる時代

TPPや6次産業化、農産物の輸出拡大など、日本の農業は変革のまっただ中。世界を見れば、工業化に伴う農業人口の減少や人口増加を背景に、食料危機が大きな課題となっています。解決の糸口を探り、農業の機械化による農業生産の拡大に向け、日本や世界の農業により一層貢献できる時代がやってきたと実感しています。

とりわけ、中国やASEAN諸国では国策として農業の機械化が進み、日本の高度な農業機械化技術が普及し始めています。日本の農機技術者たちが創り上げてきた技術や製品が、世界に広がっています。

問題点は宝の山

1975年の井関農機株式会社入社以来、商品開発・企画の仕事をしてきました。市場調査や需要を見据え、現地にあった機械を開発。実機を国内外の現場に持ち込んで改良を重ねる日々です。テストで見えてきた問題は宝の山。原因を探り、解決に向けて何度もテストを繰り返して、現地スタッフや日本メンバーとアイデアを絞りながら製品を送り出してきました。

農業分野の働く機械をつくりたい

世界の人口爆発や食料危機がすでに叫ばれ始めていた中学・高校時代、作物生産を担う機械づくりで社会に貢献したいと決めていました。その頃、当社が政府開発援助(ODA)で海外に農機を輸出していると知って興味を持ち、岡山大学農学部を卒業後、入社しました。

入社当時、日本は農機の成長期で、熾烈な開発競争が始まった時期でした。人力による稲作農業の歴史が変わりゆく中、その一角で仕事ができることを誇りに思っています。

その後、国内のみならず北米や欧州が市場となり、今では米の世界の主な生産・消費地であるアジアが一大グローバル市場として注目されています。

時代を読み、次のニーズへ

商品化には2〜3年の歳月を要します。世界各地の需要に合わせて農機を作り始めても、完成するころには、市場のニーズが次のステップになっていることもあり。ニーズや地域特性を鑑みながら、時代の先を読み、商品企画していく。そういった視点が求められています。

日本を拠点に

海外出張は多いですが、海外赴任歴はありません。日本を拠点に働く中で気を付けているのが、相手の国の歴史や背景、文化をしっかりと押さえ、尊重しながらやりとりすること。商品や事業体制がグローバル対応していることはもちろん、海外のメンバーとの意思疎通や海外のお客様に信頼していただくためには、大切なことだと感じます。

世界の食を支える

日本の農業における変革に対応するとともに、グローバル化をどう進めるか。その一つが農林水産省の掲げる「グローバル・フードバリューチェーン」。生産から製造・加工、流通、消費に至るまでの付加価値の連鎖をつくり、産地のこだわりを消費者につなげていく取り組みです。チェーンを構成するインフラの一つが農機。産学官で総力を挙げて食産業の海外展開などによるフードバリューチェーンの構築を進め、日本や世界の食を支えていきたいです。



ベトナムにて現地メンバーと

日本が誇る農機技術で 世界に仕掛ける

井関農機株式会社

所在地：愛媛県松山市馬木町
事業内容：農業機械製造・販売

農業の効率化、省力化を追求し続ける農業機械の総合専門メーカー。「需要家に喜ばれる製品の提供」を目指して、欧州、北米、中国、アジアの4本柱の構築により、グローバル展開を一層加速させている。今年創業90周年。

「高度な知の創成と的確な知の継承」。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。



大学院環境生命科学研究科・准教授

生方史数

UBUKATA Fumikazu (42歳)

- ▶1973年 東京都府中市生まれ
- ▶1995年 京都大学農学部農林経済学科 卒業
- ▶1997年 京都大学大学院農学研究科修士課程熱帯農学専攻 修了
- ▶2002年 京都大学大学院農学研究科博士後期課程森林科学専攻 修了
- ▶2003年 日本学術振興会 特別研究員 (PD)
- ▶2006年 京都大学東南アジア研究所 研究員
- ▶2007年 京都大学東南アジア研究所 助教
- ▶2009年 岡山大学大学院環境学研究科 准教授
- ▶2012年 岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授

地域住民とイネの脱穀を行う様子▶



人と自然の関わり方を探求
人と自然環境との関わり方の研究もテーマとする。その一つが、二酸化炭素の排出量を証券にする「炭素の市場化」。先進国の技術や資金援助で途上国が排

地域の研究を始めた。

際林業、東南アジア

ち、大学院では国

際林業、東南アジア

発援助に関心を

「世界には自分の

知らないことが

あふれている。

世界を見てみた

い」。途上国の開

発援助に関心を

持

ち、大学院では国

際林業、東南アジア

地域住民の立場から「持続可能な開発」を行う方策を考察

社会が持つグローバルな広がりやローカルな奥深さをいかに調和させていくべきか。東南アジアの地域研究が専門の生方史数准教授は、グローバル化が進む現代社会における開発と環境問題の関連性について、国内外の農村での現地調査を基に社会経済的側面から研究、解明している。



出を抑制した二酸化炭素の削減分を、先進国の排出削減量として認証する取り組みだ。先進国や企業の立場でとらえれば、温暖化防止につながり、途上国の資金援助もしているという見方ができる。一方、生方史数准教授は「途上国の住民はどう思っているのか。どのような問題が生じているのか」との視点でアプローチ。東南アジアに足を運び、そこで暮らす人々と話し、その背景にある文化を理解しながらローカルな立場で「炭素の市場化」が何をもたらすのかを研究している。「研究で嬉しいのは、異なる文化の人たちと理解し合えたとき」と生方史数准教授。先進国と途上国の政府や企業、現地住民などさまざまな立場をつなぐとともに、自然の中における人間の在り方を探求している。

異文化に触れた経験を活かす
異文化研究に取り組んできた経験から、活発化している文理融合研究や異分野融合研究がどのように進み、結果を生み出しているかについても調べている。「異なる研究分野がどのように交流し、融合されたのかに興味を持った。融合研究を行う研究者同士も、異なる学問体系や専門

用語を持つ異文化」と話す生方史数准教授。これまでの分野にとられない研究に挑戦している。世界に存在するさまざまな文化。学生たちには「違いと接することが普通で、多面的な視点で物事をとらえることが重要。文系や理系、学部・学科にとらわれず、専門外の勉強や課外活動、海外留学などを通じてさまざまな文化に触れ、積極的にコミュニケーションしてほしい」とエールを送る。



▶ベトナム・フエ省で聞き取り調査を行う生方史数准教授

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。
<http://www.okayama-u.ac.jp>

入道陽香

農学部総合農業科学科4年
NYUDO HARUKA



研究、スポーツ、趣味、特技…。学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。

障害を飛び越える達成感 欠かせない馬のケア

馬と呼吸を合わせ、鮮やかに乗りこなす。そんな華やかなイメージを持つ馬術競技で活躍するのが、岡山大学馬術部の入道陽香さん（農学部総合農業科学科4年）。2015年3月の春季中国四国地区学生馬術大会、学生賞典障害飛越競技では見事1位に輝いた。馬術を始めたのは高校1年の時。もともと興味があり、家族の勧めもあって馬術部に入部した。最初は馬の世話ばかりでしんどいと感じることも多かったが、馬に乗れるようになり、気持ちは一変。自分の好きな馬と一緒に障害を飛び越えていく楽しさや達成感を覚え、大学でも馬術部に入部した。入道さんの1日は午前5時半に始まる。暑さに弱い馬を気遣い、早朝練習に取り組むためだ。馬房の掃除や馬の手入れ、練習後には馬の汗を拭き、水を飲ませるなど馬のケアにも余念がない。昼間の水飲みチェック、夕方の当番、宿直、馬の看病…。1日中、馬と過ごすことも珍しくない。「馬の個性やその日の体調を把握することが大事。ただ、かわいがるだけではなく、主従関係を意識して馬と接することも重要」と力を込める。

乗り方直しレベルアップ 新たな目標見つかる

高校時代に全国大会へ出場した経験ゆえの苦悩もあった。経験者というプレッシャーを感じ、より良い乗り方を模索するうち、自分のフォームを崩してしまった。転機は大学2年の時に参加した大山乗馬クラブでの合宿。インストラクターに「その乗り方ではだめだ」と指摘され、4日間で乗り方を一から直した。「レベルアップを感じ、新たな目標を見つけた」と指摘され、4日間で乗り方を一から直した。「レベルアップを感じ、新たな目標を見つけた」と指摘され、4日間で乗り方を一から直した。「レベルアップを感じ、新たな目標を見つけた」と指摘され、4日間で乗り方を一から直した。

岡山大学馬術部

1949年に創部し、現在は1～3年生26人が在籍。中国四国地区学生馬術大会では優勝争いに絡む強豪校であり、上位3人が出場できる全日本学生馬術大会に幾度も出場するなど、歴史と実績を持つ。本年度も3人馬が全日本学生馬術大会へ出場している。



インタビューア
岡山大学学生取材班
環境理工学部環境管理工学科
中野 巨

- 5日 サブサハラ・アフリカ地域の教育関係者ら10人が、初等理科教授法の改善と学力評価手法を学ぶ研修を開始
- 15日 研究推進産学官連携機構が「第49回岡大サイエンスカフェ」を開催
- 18日 ミヤンマー・パテイン大学の学長らが森田潔学長と荒木勝理事を表敬訪問
- 19日 次世代認定マーク「新くるみん」を取得
- 22日 異分野融合先端研究コアの佐藤伸准教授に学長奨励賞を授与
- 22日 地域総合研究センターが学生によるまちづくりの取り組みを支援する学部チャレンジ企画を採択
- 23日 教育改革プラン「PRIMEプログラム」…世界で活躍できる『実践人』を育成する！の事業遂行について、外部評価委員会を開催
- 24日 「岡山大学エコナイト2015」を開催
- 25日 定例記者発表(6月)を開催
- 29日 国際原子力機関(IAEA)と岡山大学と国際原子力機関との放射性廃棄物管理における研究と高等教育分野の協力に関する実施取決めに署名し、協定を締結

- 1日 地球物質科学センターが「三朝国際インターンシッププログラム2015」を開催
- 1日 ベトナム・ハイフォン医科薬科大学と大学間交流協定を締結
- 1日 セルビア・ベオグラード大学の学長らが森田潔学長と荒木勝理事を表敬訪問
- 3日 医歯薬融合型教育研究棟のオープニングセレモニーを開催
- 7日 中国・北京外国語大学と大学間交流協定を締結
- 12日 ウェイトトレーニング部が「第42回全日本学生パワートレーニング選手権大会」で総合団体優勝を果たし、文部科学大臣杯を獲得
- 13日 中国・東北師範大学外国語学部内の中国赴日日本国留学生予備学校の副校長が森田潔学長と荒木勝理事を表敬訪問
- 22日 岡山市と「コンベンションの誘致開催における連携・協力に関する協定」を締結
- 23日 岡山大学Junko Fukutake Hall (Jホール)が「第56回BCUS賞」を受賞
- 24日 定例記者発表(7月)を開催
- 23日 岡山大学Junko Fukutake Hall (Jホール)が「第56回BCUS賞」を受賞
- 24日 定例記者発表(7月)を開催
- 5日 研究推進産学官連携機構が「第50回岡大サイエンスカフェ」を開催
- 7日 岡山大学病院が厚生労働省の「造血幹細胞移植医療体制事業実施施設」に認定
- 1日 文部科学省情報ひろばで特別展示を開始



岡山大学と岡山市のコンベンションの誘致開催における連携・協力に関する協定 調印式

研究・臨床成果

- 大学院自然科学研究科の望月建爾特任助教、申賀研一助教授の研究グループは、カーボンナノチューブ内部に閉じ込められた水の挙動を分子シミュレーションで解析。氷と水の区別がなくなる新たな臨界点(固液臨界点)が存在することを明らかにした。「米科学アカデミー紀要」に掲載。(6月・臨時発表)
- 自然生命科学研究支援センターの小野俊朗教授、花房直志准教授らの研究グループは、骨と同一成分のヒドロキシアパタイト(HAP)を用いて汚染水から効果的に放射性ストロンチウムを吸着・除去する新規技術を開発。さらに、放射性ストロンチウムはHAPに吸着・固定化した後、少量の個体廃棄物として保管廃棄できることを明らかにした。ハンガリーの国際雑誌「Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry」電子版に掲載。(7月・定例発表)
- 資源植物科学研究科の佐藤和広教授と農業生物資源研究所らの研究グループは、実が落ちずに収穫できるオオムギ(栽培オオムギ)の起源を探索。欧州等(西)に分布する栽培オオムギが約1万年前に南レバント(イスラエル)で突然変異した子孫で、日本等(東)に分布する栽培オオムギがその後北レバント(北西シリアから南東トルコ)で起きた別の突然変異の子孫であることを突き止めた。アメリカの学術雑誌「CELL」に掲載。(7月・臨時発表)
- 大学院自然科学研究科の石川篤助教と理化学研究所は、光吸収メタマテリアルと呼ばれる人工光学材料を開発。その表面に吸着した有機分子を、アト(10⁹)、モルレベルの高い感度で赤外分光計測できる技術を世界で初めて開発した。イギリスの科学雑誌「Scientific Reports」に掲載。(8月・臨時発表)

INFORMATION

Okayama University 岡山大学ホームカミングデー Homecoming Day 2015

同窓生
在学生・教職員
およびOBの皆様
一般の方々もご参加
いただけます。

2015.10/17^土
午前9時40分～

岡山大学津島キャンパス 他

※日時、場所は各企画で異なりますご注意ください。

歓迎式典・Alumni (全学同窓会) 総会

▶時間/10:00～11:30

混声合唱団グリーンクラブ
のミニコンサートも開催!



岡山大学ミュージックフェスティバル

岡山大学の音楽系団体有志による音楽の祭典。学生たちの生演奏をお楽しみください。

▶開場/13:00

▶開演/13:30～16:30



美術教育講座の学生・同窓生による美術展

教育学部および教育学研究科で

美術を専攻する在学生と同窓生の作品(絵画、彫刻、工芸等)をぜひご鑑賞ください。

▶時間/10:00～16:30



茶道部お茶席

茶道部の学生が点てた美味しいお抹茶をご賞味ください。お菓子付きです。

▶時間/11:00～16:30

先着280名

創立五十周年記念館1階で整理券を配付します。

ホームカミングデーは、岡山大学の同窓生および教職員OBの皆様、再び岡山大学に足を運んでいただき、大学の近況に触れ、なつかしい恩師や同窓生、在学生、教職員との交流を深めていただくことを目的としたイベントです。一般の方もご参加いただけますので、ぜひお越しください。

創立五十周年記念館周辺

応援団総部演舞

応援団総部の学生が力強い演舞で皆様を歓迎!チャリダー、吹奏楽団も活躍します。

▶時間/9:40頃～9:50頃

うらじゃ演舞と総踊り体験

岡大生も多数参加しているうらじゃ連「楽鬼」「笑輝」の演舞と総踊りをお楽しみください。

▶時間/11:30頃～12:00頃

岡プロ! スライムづくりに挑戦!

キャリア開発センター学生企画チーム「岡プロ!子どもプロジェクト」による企画。

▶時間/11:00～16:30

津島キャンパスウォークツアー

■企画ツアー

在学生とキャンパス内を散策し、学生時代のあの頃にタイムスリップしてみませんか?

▶時間/11:00～(約1時間程度)

思い出茶屋

同窓生の皆さん!この機会に在学生と語り合って交流してみませんか?お茶とお菓子をご用意してお待ちしています。

▶時間/11:00～16:30

▶場所/情報展示室



岡大の同窓生、在学生、関係者によるお店が

▶時間/11:00～16:30

- 岡山・岡大文化店(デニムグッズ、写真はがき、写真展も開催)
- CA(キャンパス・アジア)(韓国焼菓子)
- EXCAFE(エスプレッソ、焼菓子他)
- MACHI FES(ジュース、コーヒー、お菓子)
- Vengal!(ソーセージ、オムレツ他)
- ピアカフェ(パウンドケーキ、紅茶)
- みまちゃんの店(栗まんじゅう、黒枝豆他)
- もちもちパンのお店(菓子パン、調理パン他)
- 岡プロ!&岡山大学生協(オリジナルグッズ)
- 大学を通して人を学ぶ会ワーキンググループ(倉敷ひしお焼、岡山パクチードレッシング他)
- 満月BAR(ビーフシチュー、フレンチトースト他)
- L-café(ヒピンバ丼、海苔巻き他)
- 新庄ひめのもち「グッドジョブ支援センター店」(お餅、チヂミ、焼きそば他)
- Okadaiファーム・マーケット(岡大農場の農産物)(13:00頃販売終了予定)
- ももちゃん(白桃コンフィチュール他)

1日限定
OPEN!

ウェルカムパーティー 南福科施設(ビーチユニオン)4F

同窓生、在学生、教職員、教職員OBの皆様。学部、業種、年代を超えた交流を楽しみませんか?軽食とお飲み物を用意してお待ちしています。

▶時間/12:00～13:00頃

▶申込期間/10/9まで ▶参加費/2,000円

▶申込先/総務・企画部 総務課

TEL:086-251-7009

要・事前申込

Email:ou-hcd@adm.okayama-u.ac.jp



Jテラスウェイブ

Jテラスのオープン1周年を記念して、音楽ライブを開催!

▶時間/10:00～19:00

▶場所/Jテラス、Jテラスカフェ

各学部等による企画

※詳しくは岡山大学ホームカミングデー2015 ホームページをご覧ください。

法学部

- 講演会「犯罪と捜査の今昔」
要・事前申込(当日参加・可)
- 懇親会
要・事前申込(当日参加・可)

理学部

- 理学部同窓会主催「牛窓臨海実験所」見学会
要・事前申込
- 特別講演会「カードシャッフルの数理」
- 懇談会

歯学部

10/18 鹿田キャンパス

■歯学部キャンパスツアー

薬学部

■薬用植物園の公開と植物解説

工学部

- 工学部の施設・研究室等公開
- 工学部同窓会報告会
- 工学部同窓会懇親会
要・事前申込

環境理工学部

- 環境物質工学科同窓会
- 環境管理工学科 先輩を囲んで
- 環境デザイン工学科 卒業生を囲む会
- 環境数理工学科同窓会

農学部

- 農学部公開シンポジウム 要・事前申込
- ・演題「森林資源の活用による地域活性化」

附属図書館

■附属図書館自由見学

グローバル・パートナーズ10/18

■岡山大学スーパーグローバルデー(OUSGD)

○記念講演会および国際同窓会総会

※内容は予告なく変更する場合があります。写真はイメージです。

ACCESS

- ▶当日のご来場は公共交通機関をご利用ください。
- ▶津島キャンパスへは、岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から岡電バス47系統「岡山理科大学」行きに乗りし「岡大西門」で下車。
- ※10/17(土)は、受付(創立五十周年記念館周辺)で詳細なパンフレットをお配りする予定です。

岡山大学ホームカミングデー2015 ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/homecoming2015.html>

問い合わせ先

岡山大学 総務・企画部 総務課 TEL:086-251-7019

Email:ou-hcd@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号



岡山大学ホームカミングデー2015 検索